

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ルアナ御幸町（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R7年12月5日		R7年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	R8年1月10日		R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月10日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種（保育士・看護師・セラピスト等）が在籍していることで、対象児童をそれぞれの専門性を活かした多面的な視点でアセスメントし、支援に活かすことができている。	互いの専門性を尊重しながら、時間があれば意見交換や情報共有を図り共に学びあうことを意識している。	引き続き、気になったことは積極的に意見交換できる職場の雰囲気づくりと研修会等への積極的な参加、伝達研修を行い支援の質の向上に努めていく
2	保護者アンケートより、保護者との信頼関係が良好であるとの評価が高く、職員の共感的姿勢をもって保護者との良好な関係性や安心して通える施設の雰囲気づくりが出来ている。	送迎時や記録で、利用した際の様子を詳しくお伝えしているとともに、出来た事やポジティブなエピソード声掛けを意識している。保護者の話したいことも言いやすい雰囲気づくりを心がけ、HUGからの質問などにもしっかり返答することを意識している。	次年度はもう少し保護者と関わる機会や保護者同士の交流が生まれるような機会を作るよう検討していきたい。
3	安全管理体制に力を入れ、毎月の避難訓練やマニュアルの整備、緊急時対応訓練を行っている。	医療的ケアが必要な利用児も多いので、実際に業者から人工呼吸器を借りてきての急変時訓練や人形を使用した訓練、緊急時に役割分担がスムーズにいくよう役割カードなども活用して訓練を実施している。	引き続き、災害時や急変時にスムーズに落ち着いて対応が出来るよう平時からの訓練を継続するとともに、利用児の特性に合わせて適宜マニュアルの見直しをしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	物理的環境の制約がある（玄関スロープが狭い、医療的ケア児の車いす、バギー等による活動スペースの圧迫、床の冷たさ、駐車場不足等）	施設の立地が市街地にあり土地が狭い、築年数が経っている施設なのでリフォームしても限界がある。 課題解決には費用面の問題もクリアしなければならない。	・玄関スロープは次年度工事予定 ・スペースについては、活用方法をスタッフで検討していく ・床の冷たさはホットカーペットを購入し設置した ・駐車場は施設正面の土地を確保したので今後駐車場は増える予定。
2	保護者交流・家族支援の機会が少ない	今年は保護者交流を目的とした運動交流会の開催やペアレント・トレーニングを開催したが、保護者アンケートや職員の意識的にも保護者交流の機会はまだなかったとの回答は多く周知の仕方が上手くいかなかった。	保護者交流の機会やペアレント・トレーニングを次年度も企画しているが保護者だけでなく職員への周知や参加を促すような案内を作成していく
3			